

午後零時の珈琲店

音のない世界で目覚めた
人影消えた古いビル
消さずに残された煙草の火
口つけられぬままの冷めたコーヒーの中で
ドクドク育つような白と黒の模様
そっと笑っている
書き上げられない詩と
そっと泣いている
インクのおい

露草の上で踊る
月が照らす湖面を
銀河の渡し舟 いにしえの水
空から降る歌声
星めぐりのたずね人
きれいにねじられた少女の結い髪
そっと流れだす
時間のない部屋から
そっと動いた
時計の針

頭の隅で溶けていく
頭の隅で溶けていく
見つけたものが消えていく
つないだ指が解けていく
こわれた君に手をのばす
つみかさねられた古い椅子
宛先不明の小包
知らない命だけが生きる店
そこにあるはずの名前
そこにいるはずの恋人
異国の歌を歌う女が独り
そっと立ち去る
出番のない奏者が
そっと飛び立った
子供の声

足音がして追っていく
足音がして追っていく
暗やみがきて目を覚ます
つかんだ闇を胸に抱く
こわれた君に手をのばす

音のない世界で目覚めた
テーブルの上で手と手がかさなるような瞬間
夢を見る